

## &lt;調査速報&gt;

## テオティワカン「月のピラミッド」56層および 第1期建造物出土のパトラチケ期の土器

佐藤 悦夫  
(富山国際大学)

### 1、はじめに

標高約2,300mのメキシコ盆地に位置するテオティワカン遺跡は、前1世紀から後7世紀頃まで栄えたアメリカ大陸最大級の都市国家であった。テオティワカンでは、入念な都市計画に基づいた建築活動が、紀元1年から150年にかけて行われたといわれている。その都市設計の軸となったのが、一辺約150m、高さ45mの「月のピラミッド」を基点として、都市の中央部を南に走る長さ4km、幅45mの「死者の通り」と呼ばれる大通りであった。この通りに沿って、20以上の神殿が建設され、この中でも「太陽のピラミッド」は、一辺約220m、高さ65mの規模を持つ巨大な神殿であった。周辺には、20平方キロメートルにわたり2,000を超えるアパート形式の集合住居が存在し、当時の人口は10万から20万人といわれている。アパート建築に居住した集団の中には、黒曜石製石器、土器、織物などの工芸品を専門に生産する集団もいた。このようにテオティワカンは、メキシコ中央高原をコントロールするような都市国家であり、その影響はティカル遺跡やコパン遺跡などのマヤ文明の諸都市国家にも大きな影響を与えている。

本稿では、1998年より開始した「月のピラミッド」考古学プロジェクトで得られた最も古い時期であるパトラチケ期（B.C.150-A.D.1）に属する土器の報告である。パトラチケ期の土器に関しては、ベニホフ（Bennyhoff and Millon 1967）やブラッチャー（Blucher 1971）等の報告はあるが、決して多くはない。本稿で取り扱う土器資料は、重なり合う複数の建造物と伴に出土した土器であり、パトラチケ期の土器の特徴を把握する上では貴重な資料と考える。

### 2、「月のピラミッド」56層および第1期建造物出土の土器の特徴

#### (1) 出土層位と土器数

「月のピラミッド」は、1998年から始まったトンネル発掘により7期の建造物の増改築があったことが解明されている（杉山 2000）。56層は、第1期の建造物の下にあり、地山直上の自然堆積層と考えられる層（図1）であり、トンネル1、3、4、5で確認されている。また、第1期建造物は、

「月のピラミッド」の建築史の中で最も古い建造物であり、その建築時には56層の土が使用されたと考えられる。

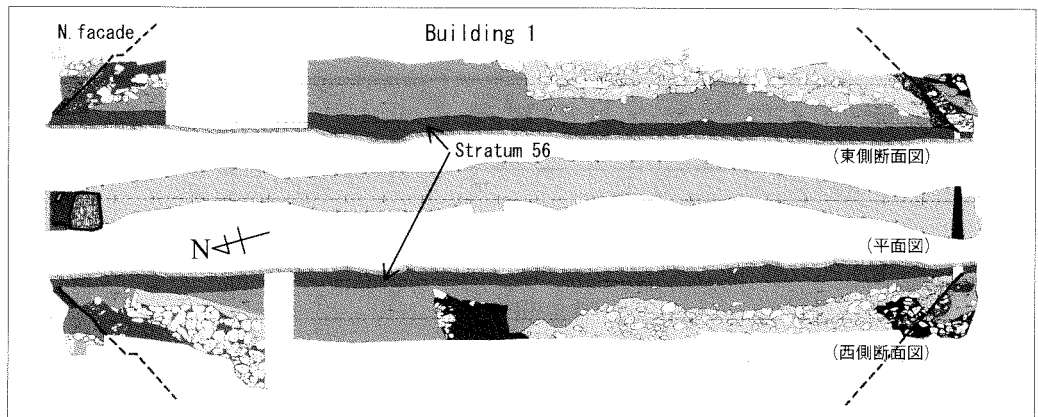


図1：56層と第1期建造物の盛土

(出所：Etsuo Sato, Hirokazu Kotegawa, Saburo Sugiyama, and Janet Montoya 2008)

56層のすべての土器の中でパトラチケ期に属する土器は89.3%、第1期の建造物の盛土では93.8%であった(表1、表2)。パトラチケ期の土器は他の建造物の盛土からも出土しており、合計1,125個対数を分析したが、本稿では56層と第1期建造物出土の土器に限定して報告する。

表1：第56層の層位と層位毎の土器の構成比

層位	Patl(口縁部)		Tzac(口縁部)		Micc(口縁部)		Tlam(口縁部)		同定不能(口縁部)		合計(口縁部)
56層 (T1)	98	90.7%	9	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	108
56層 (T3)	13	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13
56層 (T4)	30	81.1%	5	13.5%	0	0.0%	0	0.0%	2	5.4%	37
56層 (T5)	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
Total	142	89.3%	14	8.8%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.9%	159

(註：T1は Tunnel 1 を示し、%は層位毎の土器の構成比を示している。また土器の数はすべて口縁部数である。)

表2：第1期建造物の層位と層位毎の土器の構成比

層位	Patl(口縁部)		Tzac(口縁部)		Micc(口縁部)		Tlam(口縁部)		同定不能(口縁部)		合計(口縁部)
56層,79層	107	97.3%	2	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	110
79層	46	90.2%	3	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.9%	51
79層,80層	43	89.6%	4	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.1%	48
80層	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
Total	196	93.8%	9	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.9%	209

(註：%は層位毎の土器の構成比を示している。また土器の数はすべて口縁部数である。79層は土の層、80層は石が多く含まれている層である。)

## (2) テオティワカン土器分析における Ware とグループ

テオティワカン遺跡の土器の分類では、土器の胎土や表面調整の属性に着目して同一の属性を持つものをひとつの Ware として分類する方法が一般的に使われており、テオティワカン産の土器では9の Ware が定義されている (Rattray 1981: 113-129)<sup>1)</sup>。ラットレイによると同一の Ware は複数の時期に見られ、それぞれの Ware は下記のような特徴を持っている。

Matte Ware は、Coarse Matte と Fine Matte の2種類がある。Coarse Matte は、砂質の胎土で表面はナデ調整が行われるだけである。器種は香炉であり、トラミミロルパ以降には携帯用の香炉と考えられている Canderero が出現する。パトラチケ期からメテベック期まで続く。

Burnished Ware は、土器の表面に磨きの調整が施された土器でスリップはかけられていない。表面の色は、赤褐色、褐色、暗褐色とヴァリエーションがある。胎土は、時期によって異なるがやや荒い胎土から良質の胎土までありテンパーを含む。代表的な器種は、Olla と Comal でパトラチケ期からメテベック期までのすべての時期で見られる。

Polished Ware は、表面が研磨され光沢を有するグループで表面の色彩により黒色系と褐色系に分けられる。代表的な器種は、Jar, Bowl, Vase, Plate, Florero, Tlaloc Jar 等で特にミカオトリ期の土器は質的にも優れ、量的にも豊富になる。パトラチケ期からメテベック期まで出土する。

Painted Ware は、装飾技法の違いにより Monochrome Red, White on Red Bichrome, Red on Natural Bichrome, Polychrome, Resist 細分される。表面は良く研磨され光沢がある。赤の顔料は、パトラチケ期からミカオトリ期までは、赤鉄鉱 (Hematite) が使われないが、トラミミロルパ前期以降では赤鉄鉱を使用した Specular Red が現れ、シヨラルパン期では一般的になる。Monochrome Red と Red on Natural Bichrome はパトラチケ期からメテベック期まで、White on Red Bichrome と Resist は、パトラチケ期からトラミミロルパ前期まで、Polychrome はパトラチケ期からサクワリ前期までそれぞれ続く。

本稿では、それぞれの Ware を、表面彩色や装飾技法の違いにより、グループに細分している<sup>2)</sup>。

## (3) 「月のピラミッド」56層および建造物1出土のパトラチケ期の土器の特徴

### ●Matte Ware

#### ① Coarse Matte Group

出土数 : 5 (1.5%)

胎土 : 褐色あるいは明褐色 (7.5YR 6/4, 2.5YR 6/8) の砂質の胎土でやわらかい。

表面調整 : 表面はナデ調整が行われるだけであり、色は褐色 (7.5YR 6/4, 2.5YR 6/8) から黒色。

装飾 : 香炉には、口縁部には刺突文が見られるものもある (図2g-i)。

器形 : 香炉 (Incensario)

### ●Burnished Ware

#### ① Burnished Brown Group

出土数 : 126 (37.3%)

胎土 : 胎土はやや荒いものから良質のものまであり、色は褐色 (7.5YR 6/6, 6/4, 5YR 6/6) からオレンジ系褐色 (2.5YR 5/8) 及び黒色である。

表面調整：表面は内外面ともよく調整され、褐色（7.5YR 5/6, 6/4, 6/6, 3/2, 5YR 5/6, 6/6）からオレンジ色（2.5YR 5/8）、また黒色系もある。

装飾：波上の口縁部を持つものもある（図3-a:g,h）。

器形：大型の壺（Olla）（図3-a, 図3-b）、壺、碗、テコマテ、Basin

## ●Polished Ware

### ① Polished Black Group

出土数：55（16.3%）

胎土：胎土は良質で、色は褐色（7.5YR 7/4, 5YR 3/4）から黒色までである。

表面調整：表面は内外面ともよく研磨され、一般的には内外面とも黒色である。

装飾：無し。

器形：碗（図4-a～図4-e）、テコマテ、壺、シリンダー状の鉢

### ② Polished Brown Group

出土数：54（16.0%）

胎土：胎土良質で、色は褐色から暗褐色（7.5YR 6/6, 6/4, 5YR 5/6, 6/6）、オレンジ系褐色である。

表面調整：表面は内外面ともよく研磨され、一般的には内外面とも褐色から暗褐色（7.5YR 6/4, 5/6, 6/6, 5YR 5/4, 6/8）。

装飾：無し。

器形：碗（図5-a, 図5-b）、テコマテ、壺

### ③ Polished Black and Brown Group

出土数：10（3.0%）

胎土：胎土良質で、色は褐色、暗褐色、オレンジ系褐色である。

表面調整：表面は内外面ともよく研磨され、外面が黒色、内面が褐色の場合あるいは外面が褐色、内面が黒色の場合がある。

装飾：無し。

器形：碗

## ●Painted Ware

### ① Red Monochrome Group

出土数：14（4.1%）

胎土：胎土は良質で、色は褐色から暗褐色、オレンジ系褐色（7.5YR 6/6, 6/4, 5YR 6/6）及び黒色である。

表面調整：表面は内外面ともよく研磨され、一般的には内外面とも赤色である。

装飾：一般的には文様はないが、沈線が見られる場合もある。

器形：碗、シリンダー状の鉢、壺

### ② Red on Natural Group

出土数：52（15.4%）

胎土 : 胎土は良質で、色は褐色、暗褐色、オレンジ系褐色 (5YR 6/4, 6/6, 7.5YR 5/4, 6/6) である。

表面調整 : 表面は内外面ともよく研磨され、褐色である。

装飾 : 赤色顔料で文様が描かれる。また、沈線の文様も見られる場合がある

器形 : 碗 (図6)、シリンダー状の鉢、壺、皿

### ③ Red and White on Natural Group

出土数 : 1 (0.3%)

胎土 : 胎土は良質で、色は褐色、暗褐色、オレンジ系褐色 (5YR 5/4, 5/6) である。

表面調整 : 表面は内外面ともよく研磨され、褐色である。

装飾 : 赤色及び白色顔料で文様が描かれる。

器形 : 碗、壺 (図7)

### ④ Red and Black on Natural Group

出土数 : 10 (3.0%)

胎土 : 胎土は良質で、色は褐色 (7.5YR 6/6) である。

表面調整 : 表面は内外面ともよく研磨され、褐色 (7.5YR 6/6) である。

装飾 : 赤色及び黒色顔料で文様が描かれる。

器形 : 碗、壺

### ⑤ Negative Group

出土数 : 11 (3.3%)

胎土 : 胎土は良質で、色は褐色、暗褐色、オレンジ系褐色 (7.5YR 6/6, 7/4, 5YR 6/6) である。

表面調整 : 表面は内外面ともよく研磨され、褐色から赤褐色 (7.5YR 6/6, 5YR 5/6, (2.5YR 5/8) である。

装飾 : 赤色、黒色顔料で文様が描かれ、またネガティブ文様を有する。

器形 : 碗 (図8-a、図8-b)

## 3、まとめと今後の課題

表3は、56層および第1期建造物出土のパトラチケ期の土器の Ware とグループ毎の構成比である。Matte Ware はパトラチケ期では、Coarse Matte group のみ出土し、数量的には少なく (1.5%) 器種は香炉である。Burnished Ware (37.3%) では、56層および第1期建造物からは彩色の施されていない Burnished Brown Group のみ出土している。胎土は、粘質で硬い。器種では大型壺が多く、口縁部が肥厚し丸くなる (round wedge-rim) や斜めに切られる (bevelled wedge-rim) が見られる。Polished Ware (35.2%) は、Polished Black Group、Polished Brown Group、Polished Black and Brown Group があり、胎土は粘質で含有物は少ない。器種は、碗が多い。Painted Ware (26.0%) には、Red Monochrome Group、Red on Natural Group、Red and White on Natural Group、Red and Black on Natural Group、Negative Group があり、胎土はほぼ Polished Ware と同様である。Negative Group は、黒色を彩色することによりネガティブ文様として表面の褐色の色を浮き出させている。モチーフは、円や波型が多くまた赤色の彩色が施される。

本稿では、56層と第1期建造物出土のパトラチケ期の土器の特徴を述べてきたが、今後はこれらの資料と他地域との比較が重要である。テオティワカン研究においては、テオティワカンの居住の起源と都市の建設が同一時期にあったと考えられていた。しかし、前述した1988年から開始した「月のピラミッド」の発掘調査により、7期にわたる「月のピラミッド」の建築と都市の南北の中心軸である「死者の通り」との関係が明らかになりつつある。特に、第1期建造物は、中心軸のずれなどから都市建設以前の建造物である可能性も杉山等によって指摘されている (Etsuo Sato, Hirokazu Kotegawa, Saburo Sugiyama, and Janet Montoya 2008)。この仮説が正しければ、テオティワカンにおける居住の起源と都市の建設は時期が異なり、「月のピラミッド」の調査で得られたパトラチケ期の土器データは居住の起源を探るうえで重要なデータである。今後は、肉眼観察のみならず胎土分析などの科学分析も行い、当時の土器製作の実態を解明する予定である。

表3：56層および建造物1出土のパトラチケ期の土器

	56層		第1期建造物		合計	
	N <sup>(1)</sup>	%	N	%	N	%
Matte Ware					(5)	(1.5%)
(1) Coarse Matte group	3	2.1%	2	1.0%	5	1.5%
Burnished Ware					(126)	(37.3%)
(1) Burnished Brown group	73	51.4%	53	27.0%	126	37.3%
Polished Ware					(266)	(35.2%)
(1) Polished Black group	14	9.9%	41	20.9%	55	16.3%
(2) Polished Brown group	18	12.7%	36	18.4%	54	16.0%
(3) Polished Black and Brown group	0	0.0%	10	5.1%	10	3.0%
Painted Ware					(88)	(26.0%)
(1) Red Monochrome group	6	4.2%	8	4.1%	14	4.1%
(2) Red on Natural group	20	14.1%	32	16.3%	52	15.4%
(3) Red and White on Natural group	1	0.7%	0	0.0%	1	0.3%
(4) Red and Black on Natural group	3	2.1%	7	3.6%	10	3.0%
(5) Negative group	4	2.8%	7	3.6%	11	3.3%
Total	142	100.0%	196	100.0%	338	100.0%

註

(1) 口縁部数

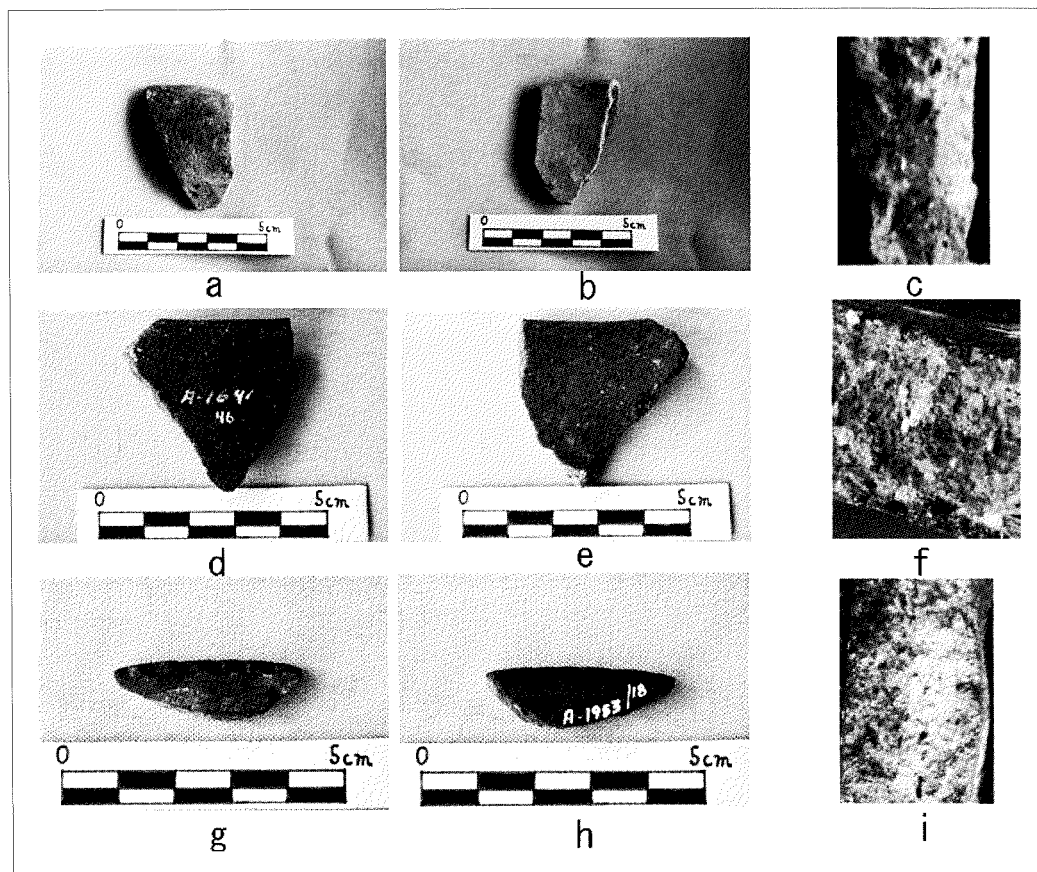


図2: a-c: 56層出土の Incensarios, d-i: 第1期建造物出土の香炉  
 (写真は、1つの土器片の外面、内面、胎土を撮影。以下、同様)

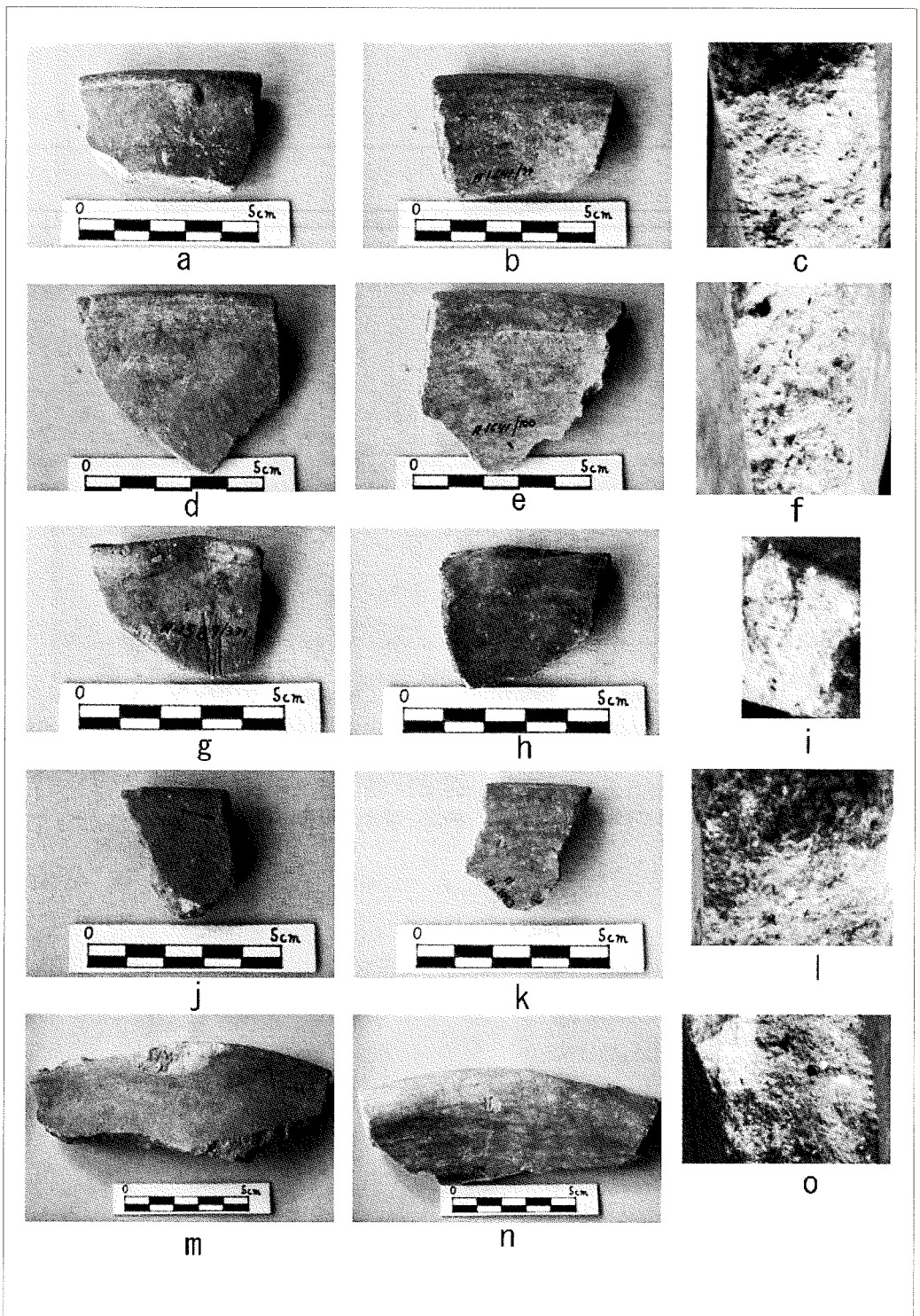


図3-a : Burnished Brown group, 第1期建造物出土の大型壺



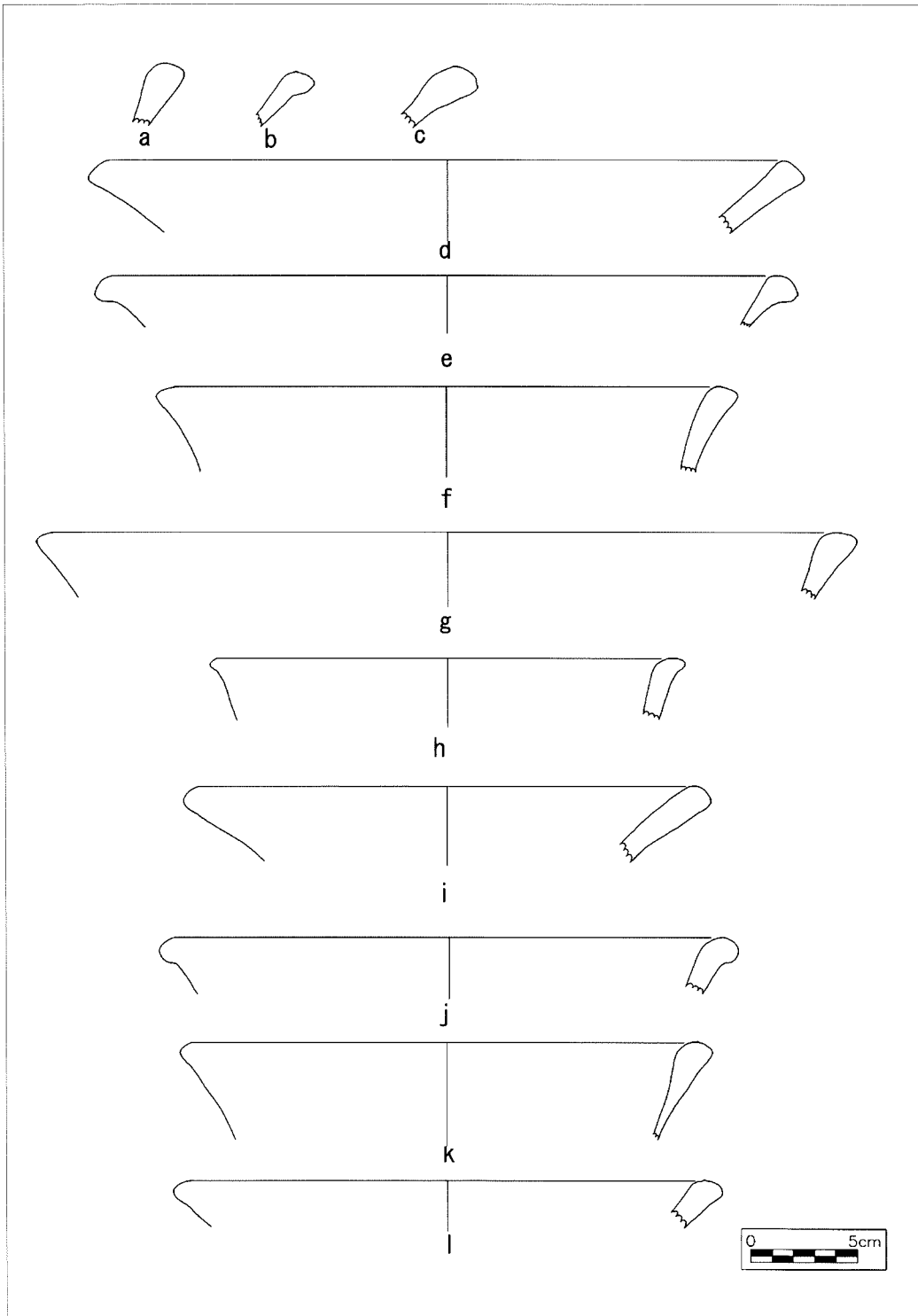


図3-b : Burnished Brown group, 第1期建造物出土の Olla

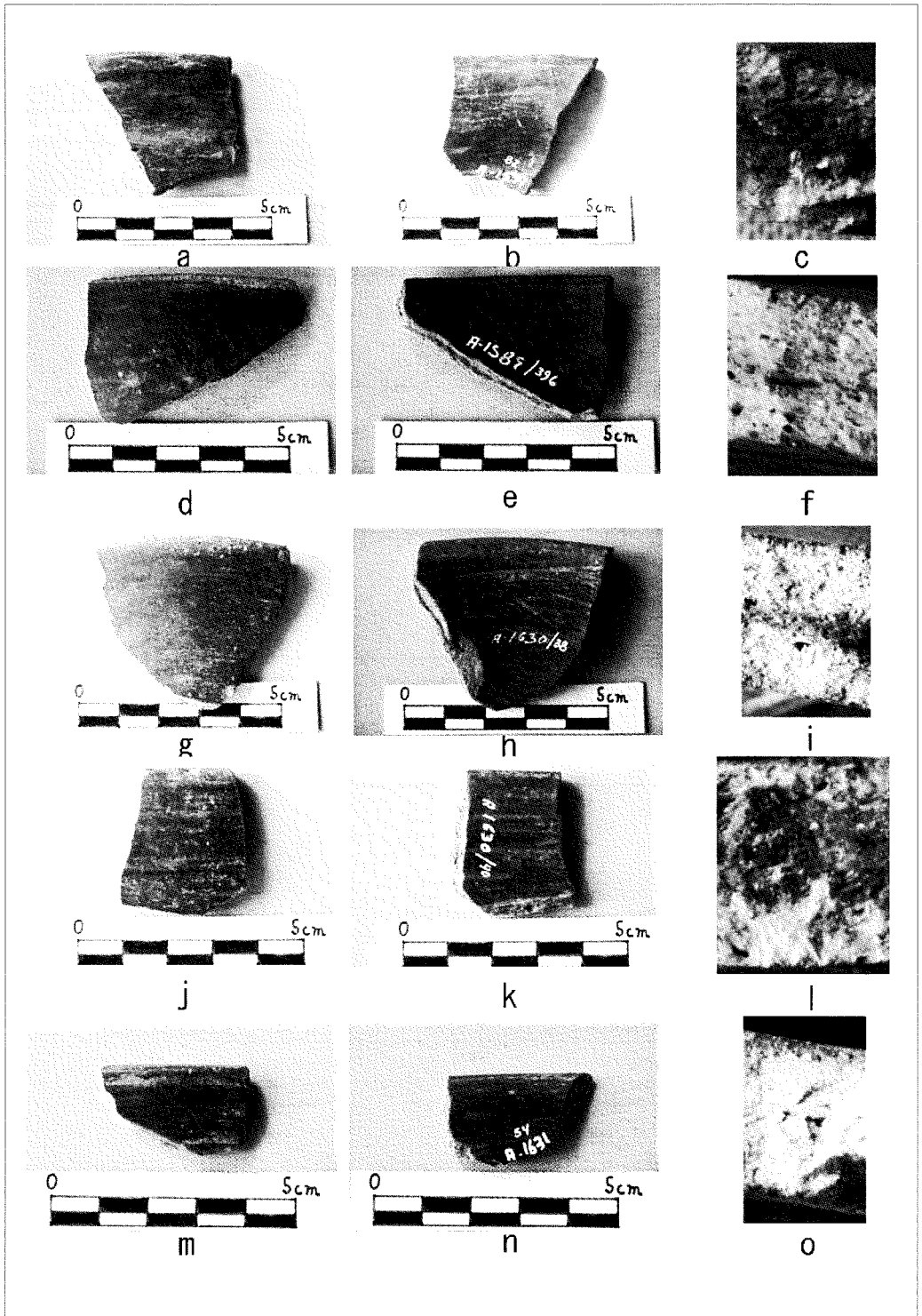


図4-a : Polished Black group, 第1期建造物出土の碗

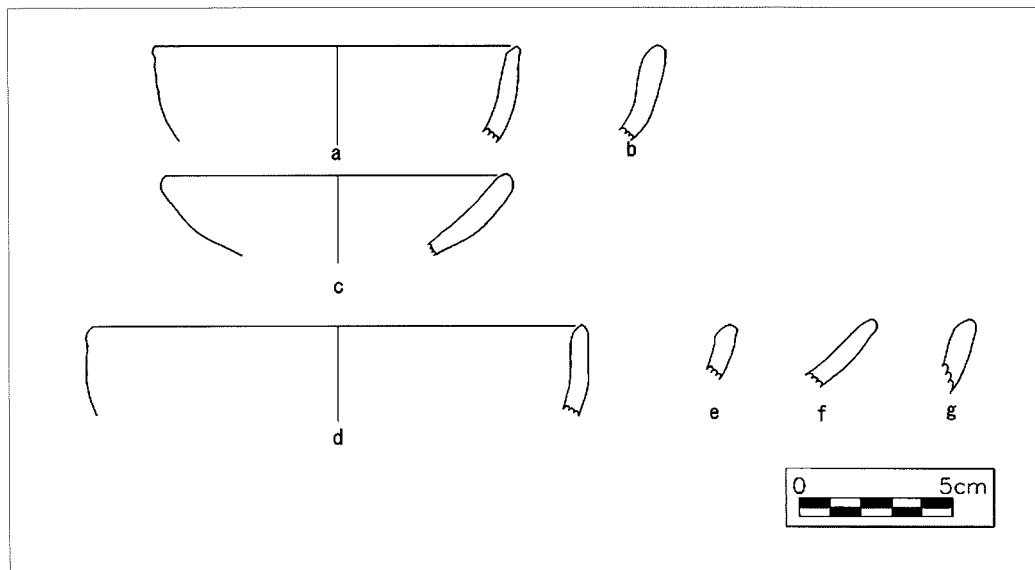


図4-b : Polished Black group, 第1期建造物出土の simple bowls

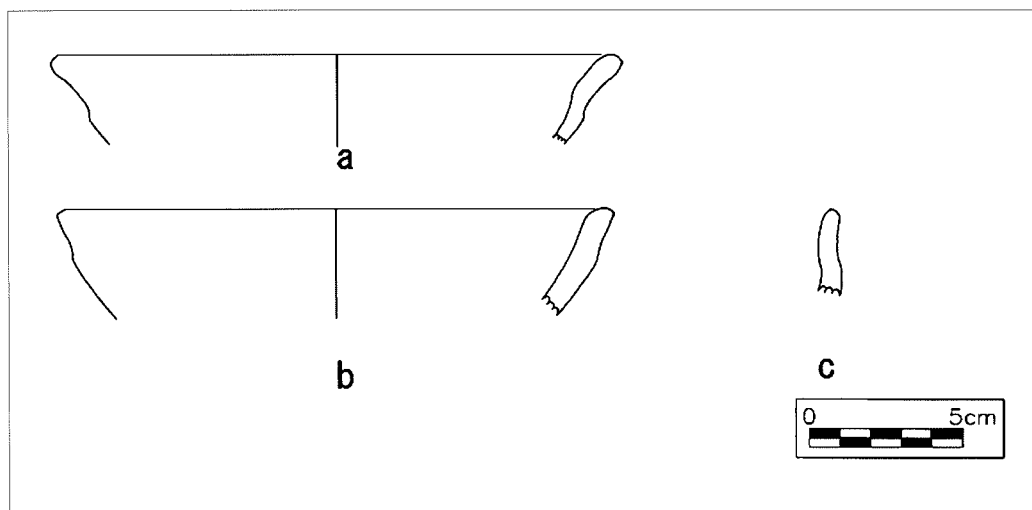


図4-c : Polished Black group, 第1期建造物出土の shouldered bowls

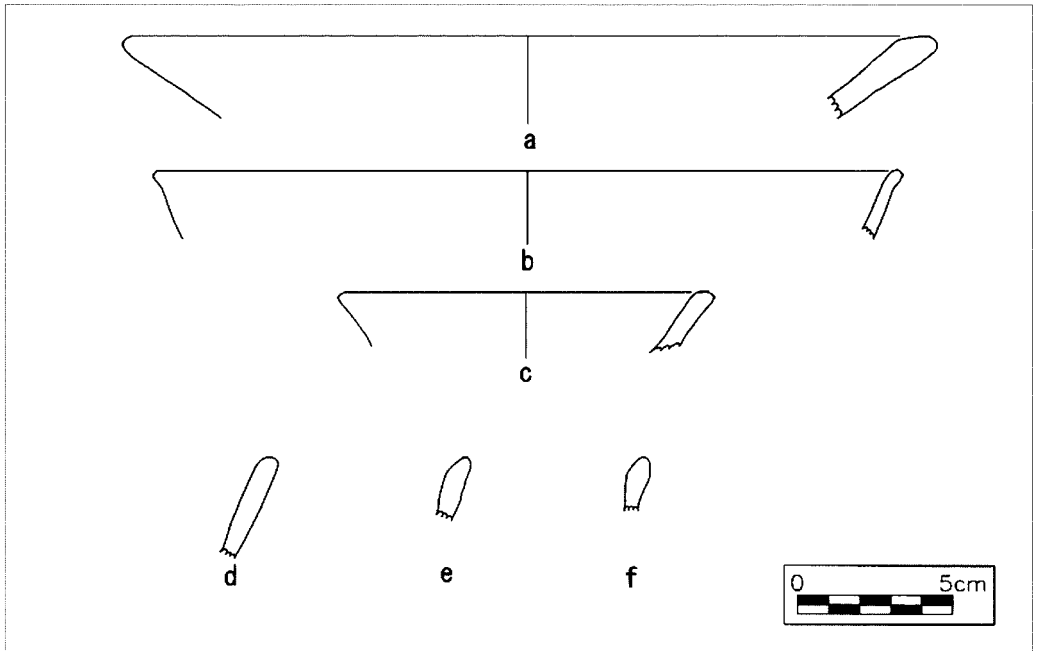


図4-d : Polished Black group, 第1期建造物出土の outflaring bowls

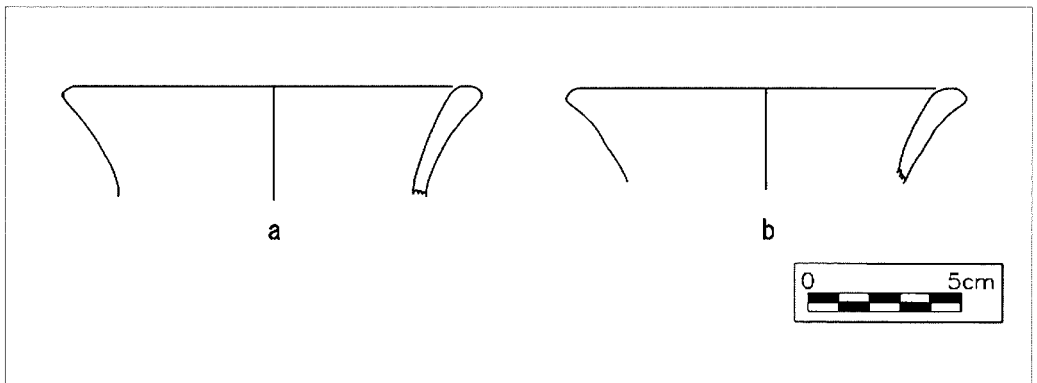


図4-e : Polished Black group, 第1期建造物出土の outcurving bowls

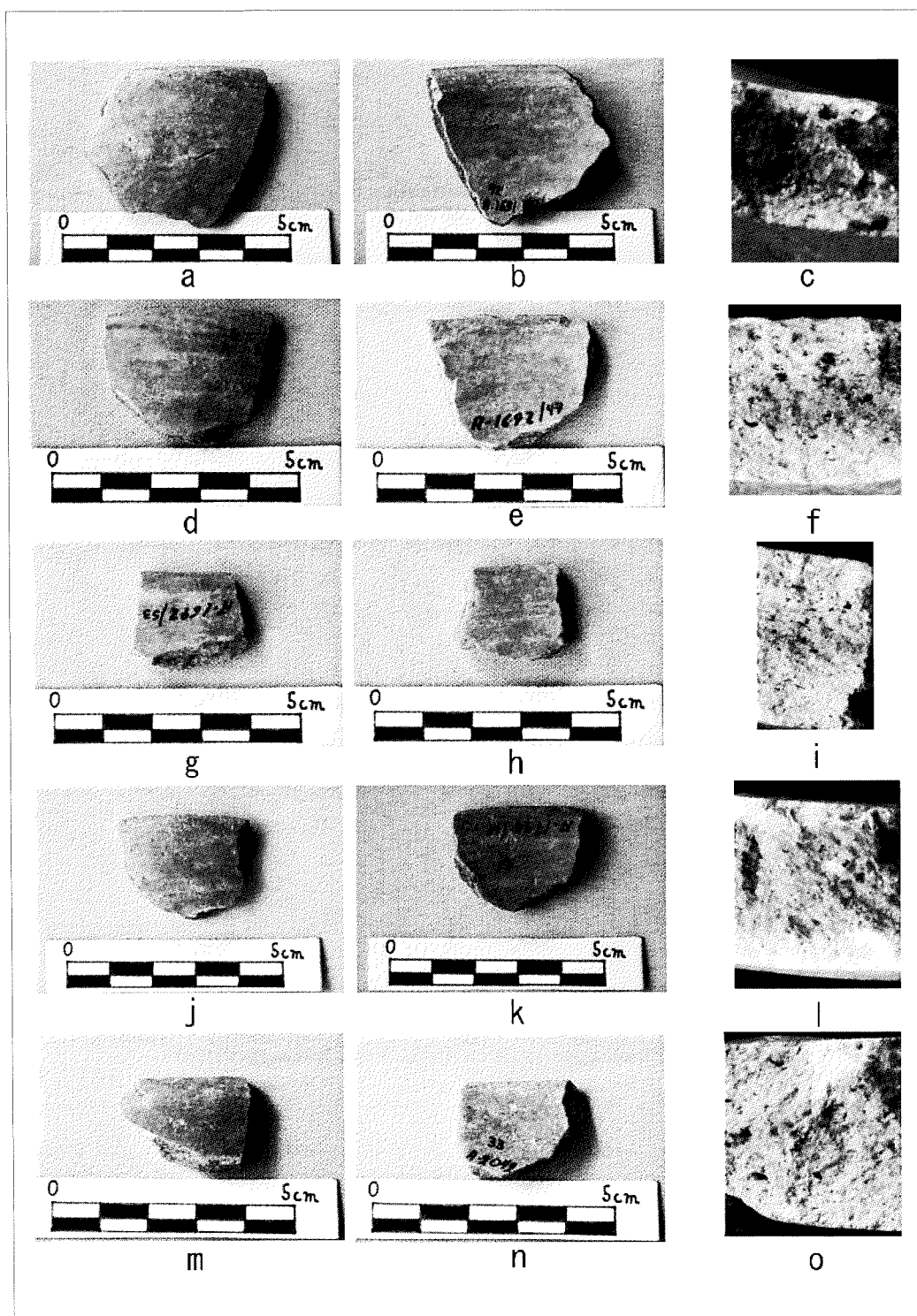


図5-a : Polished Brown group, 第1期建造物出土の碗

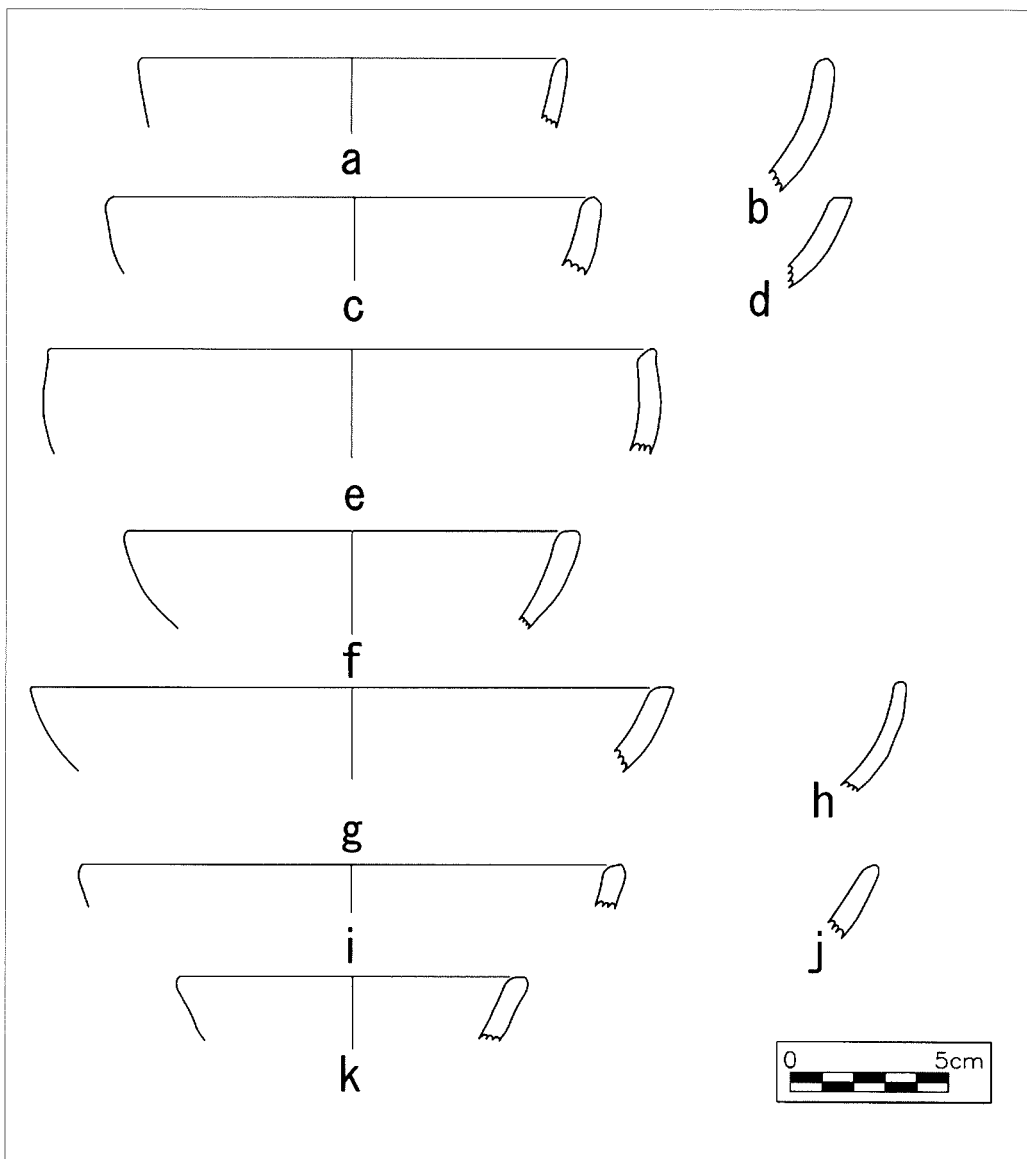


図5-b : Polished Brown group, 第1期建造物出土の simple bowls

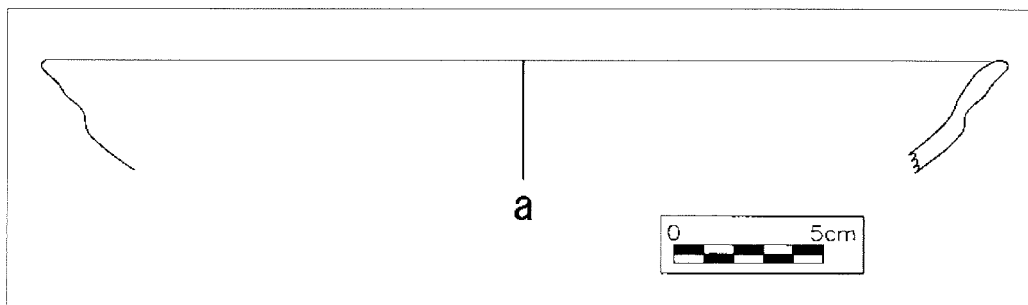


図5-c : Polished Brown group, 第1期建造物出土の shouldered bowls

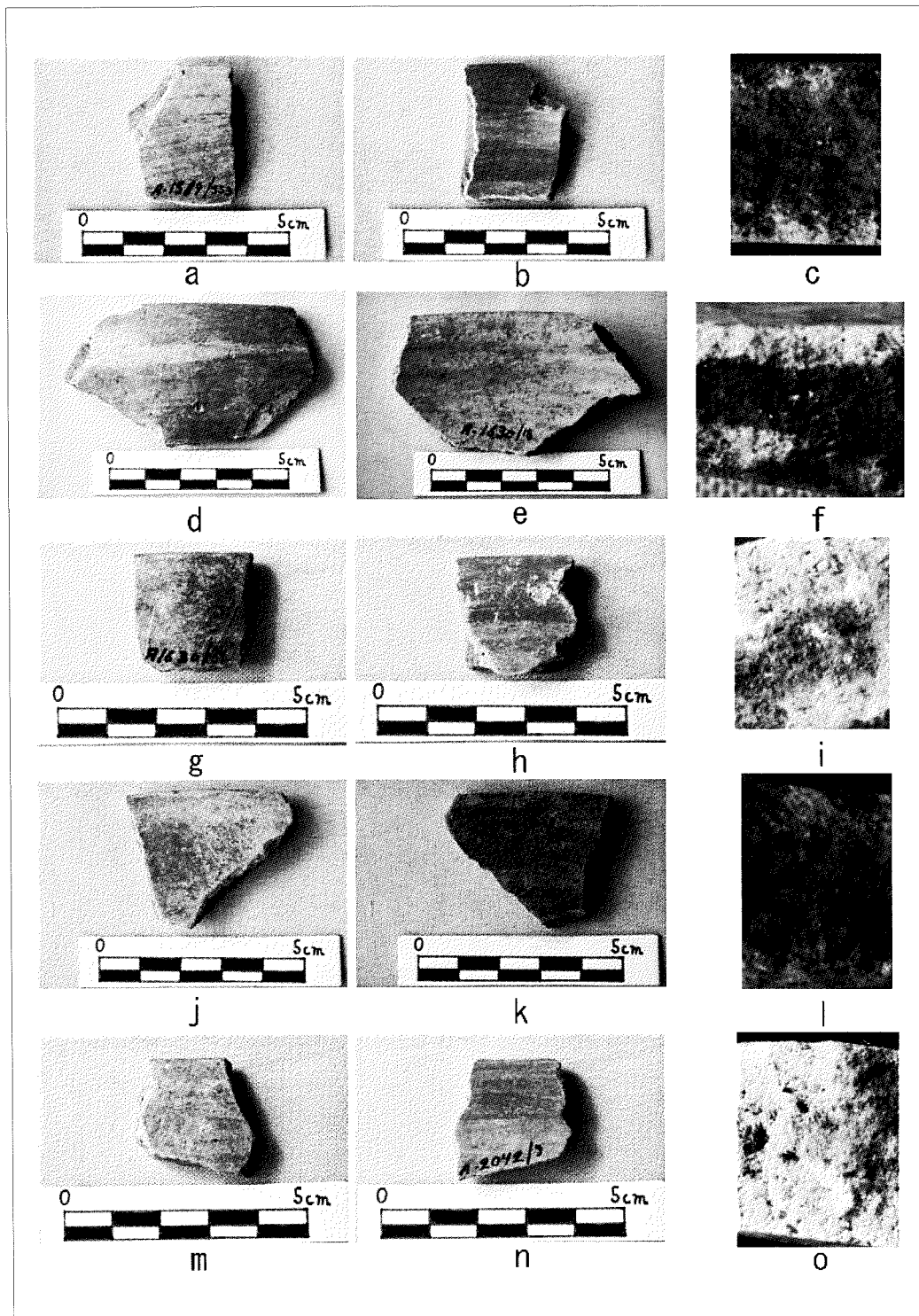


図6 : Red on Natural group, 第1期建造物出土の碗

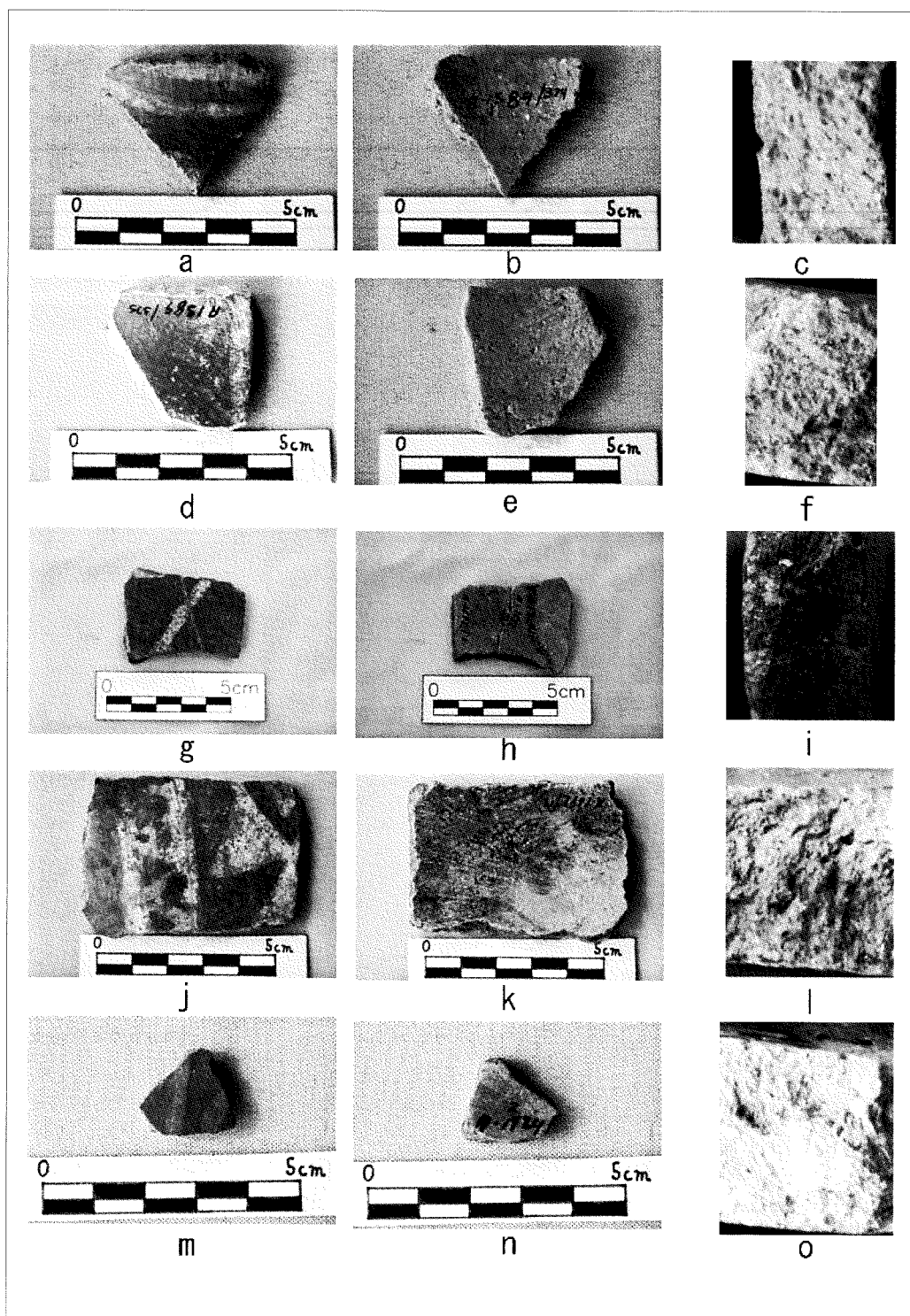


図7 : Red and White on Natural group, 第1期建造物1出土の壺



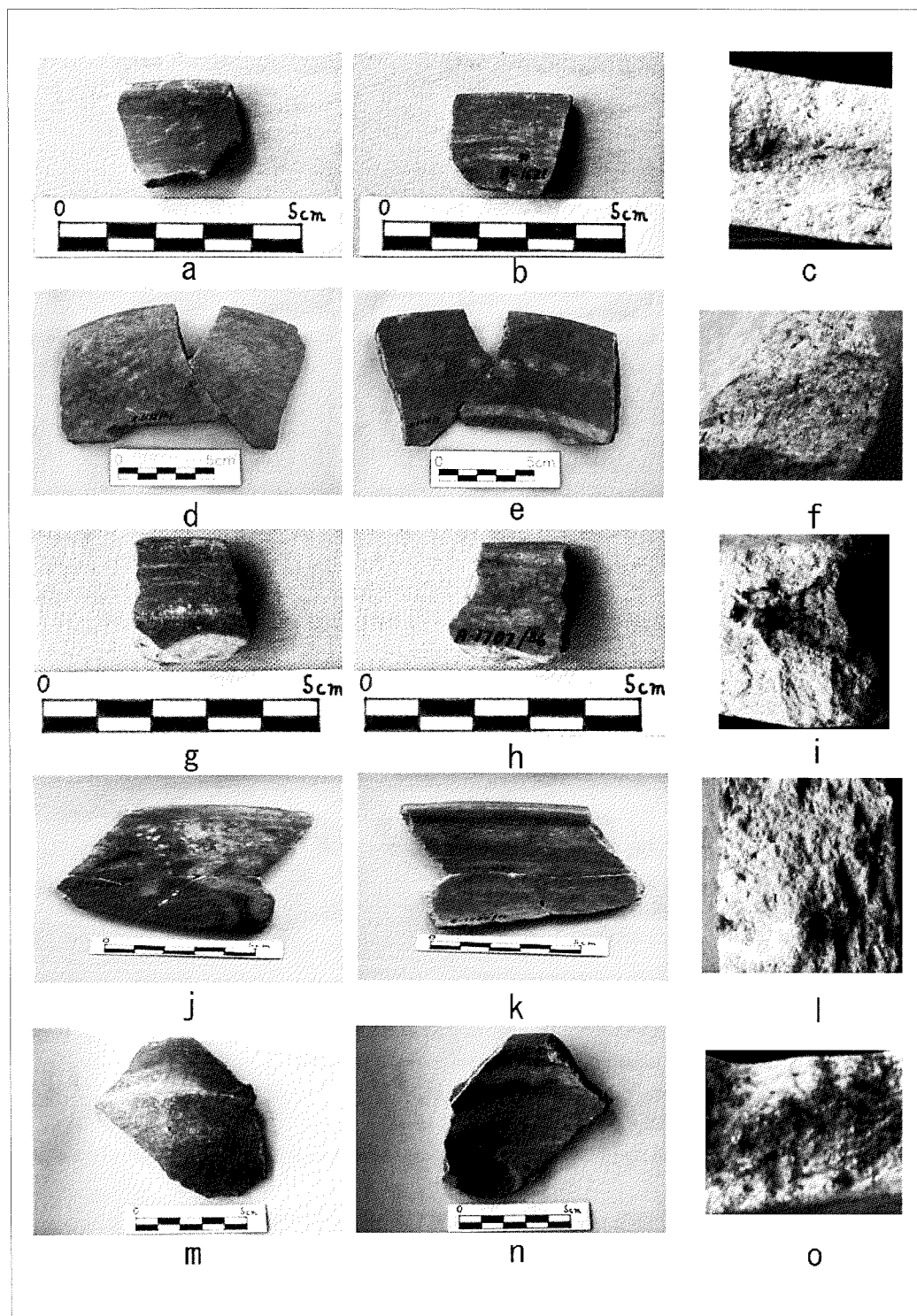


図8-a: Negative group, 第1期建造物出土の碗

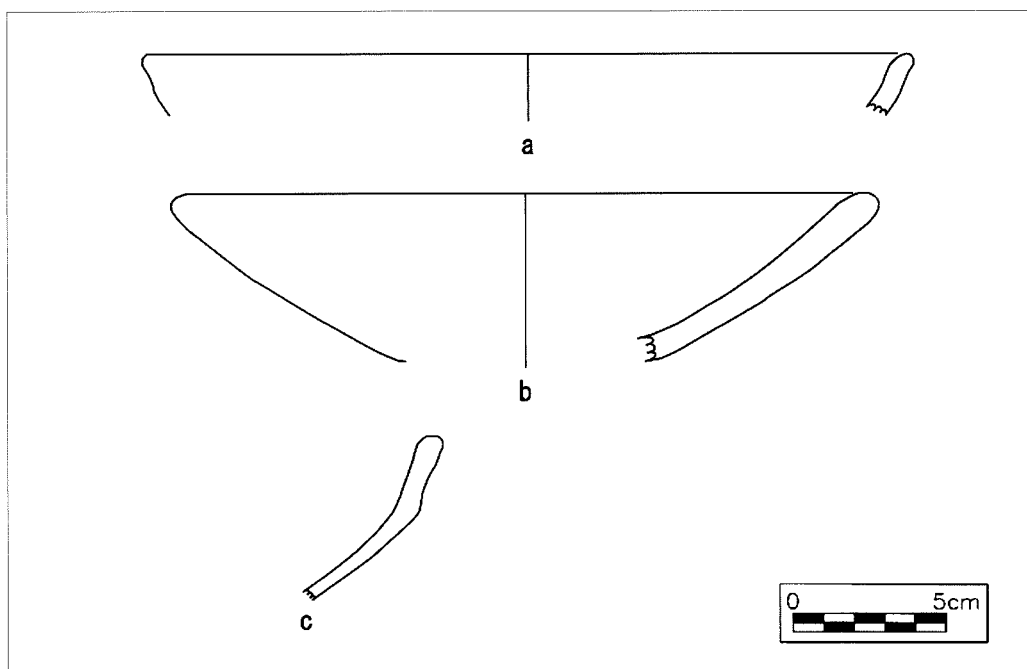


図8-b : Negative group, 第1期建造物出土の simple bowls と shouldered bowl

註

- i サクワリ期以降出現する Dense Ware、Granular Ware、San Martin Orange Ware、Copa Ware、Stuccoed and painted Ware は、本稿では省略する。
- ii トラチノルバン遺跡のパトラチケ期の土器の報告を行ったブラチャーも Burnished Ware や Polished Ware を細分して報告している (Blucher 1971)

参考文献

Bennyhoff, James A. and Rene Millon

1967 "Draft of Teotihuacan Ceramic Monograph" Unpublished Manuscript

Blucher, Stephen F.

1971 "Late Preclassic Culture in the Valley of Mexico: Pre-Urban Teotihuacan"

Ph.D. dissertation, Brandies University, Waltham, Mass.

Etsuo Sato, Hirokazu Kotegawa, Saburo Sugiyama, and Janet Montoya

2008 "Refining the Patlachique Phase: Ceramics, Figurines, and Architecture at the Earliest Monument Found in the Moon Pyramid"

Paper presented at 73rd Society for American Archaeology Meeting in Vancouver, Canada

Rattray, Evelyn

2001 *Teotihuacan: Ceramics, Chronology and Cultural Trends*

Instituto Nacional de Antropología e Historia/ University of Pittsburgh

杉山三郎

2000 「テオティワカン月のピラミッドにおけるイデオロギーと国家」

『古代アメリカ』第3号、pp.27-52